

クラス番号	601	担当教員名	角崎洋平
テーマ	家族と家計の問題から「福祉国家」のあるべき姿と行政の役割を考える		
著書・論文	著書『正義（福祉+αシリーズ）』（共著）ミネルヴァ書房、2016 『フードバンク：世界と日本の困窮者支援と食品ロス対策』（共著）明石書店、2018 『ロールズを読む』（共著）ナカニシヤ出版、2018		
研究課題等	『生活困窮と金融排除：生活相談・貸付事業と家計改善の可能性』（共著）明石書店、2020 研究課題：①生活困窮者等を対象とした家計改善支援、金融包摂、資産ベース福祉の在り方 ②責任概念と時間射程を考慮した平等主義的正義論の構築とその公共政策への応用		

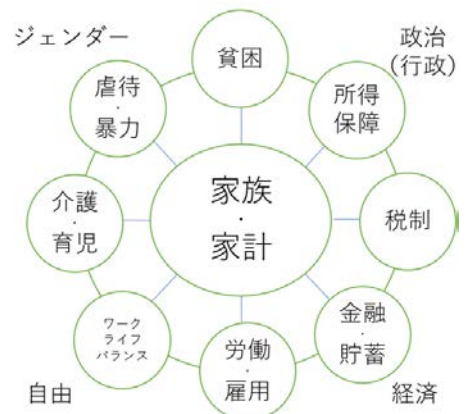
ゼミナール概要

キーワード：家族・家計・福祉国家・日本型福祉社会・子どもの貧困・税・社会保険・ジェンダー・差別・排除

■ ゼミの概要

日本は「家族主義型福祉国家」（家族主義型福祉レジーム／家族主義型生活保障システム）であるといわれます。日本は、人々の暮らしの良さ（well-being＝福祉）を維持するための最大の責務を、国家でもなく、市場でもなく、家族に負わせている国だとされるからです。こうした福祉のあり方が、他国に誇るべき「日本型福祉社会」として持ち上げられた時代もありました。しかし今日、そのほころびが至る所にみられます。少子化、子どもの貧困、男女間の不平等、ワークライフバランスの困難、家族内での暴力・虐待、などです。

このゼミでは家族（お金の面からみると家計）の問題を共通の問題関心としながら、それに関連する諸問題（左図参照）と、それを解消するための行政の役割について考えていきます。



■ 授業計画

3年生前期：「子どもの貧困」の視点から「日本型」福祉における家族と社会の問題や行政の役割を考える

「子どもの貧困」を糸口にして、家族・家計とそれに関係する福祉政策（福祉行政）の課題について理解を深めていきます。テーマとして、ひとり親世帯の貧困、社会保障と税、借金・経済的DV、雇用・労働、ワークライフバランス、妊娠・出産、ケア、教育、住まい、医療…などを扱い、家族にまつわる問題と行政の役割を考えていきます。

テキストとして『生まれ、育つ基盤（シリーズ子どもの貧困①）：子どもの貧困と家族・社会』（明石書店）

『支える、つながる（シリーズ子どもの貧困⑤）：地域・自治体・国の役割と社会保障』（同上）

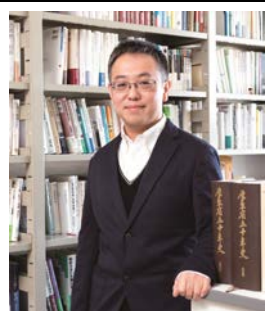
を予定しています（テキスト入手方法についてはゼミ生の負担にならないように配慮します）

- ★ 並行して各自の関心に沿った入門書（図書館にあるもの）を1冊読んで、読書レポートを提出してもらいます。
- ★ 家族や社会の課題を解決するための方向性や具体的方策については「社会福祉政策論」で、関連する行財政の歴史と仕組みについては「福祉行財政論」で、講義します。そちらも併せて履修することを原則とします。

3年生後期～：卒論執筆を進めることで、福祉国家（福祉行政）の問題点・あるべき姿についての考察を深める

- ▶ 7月末までに、おおよその卒業論文のテーマを絞ってもらいます。
- ▶ 各自の卒論のテーマに沿って、読むべき文献（論文）をピックアップし、夏休み中から読み進めてもらいます。
- ▶ 3年後期は、各自が読み進めた論文について報告をしてもらいます。
- ▶ 春休み期間中の2月か3月に、卒論の第一次報告会を実施し、卒論のタイトルとアウトライン（概略）を固めます。
- ▶ 2022年9月中旬までに卒論を一通り完成させてもらいます（公務員試験等の個別事情については配慮します）。
- ▶ 4年後期は、順次各自の卒論を発表してもらい、他のゼミ生からコメントを受け、卒論を完成に近づけます。
- ★ 二年間通じて、毎週交代（当番制）で、最近の政治・経済・社会保障・家族に関するニュースをピックアップしてもらい論評してもらいます。ディスカッションも行います（就職や公務員試験対策をかねています）。

担当教員からのメッセージ



エントリーシートには、志望理由とともに、現状での進路希望（「悩み中」も可）についても書いておいて下さい。「家族とか互助は大切だ！」と考える学生も、「家族とか互助とか絆とかクソくらえ！」と思っている学生も、両方参加してくれるといいな…と思っています。またゼミのテーマは行政や政治経済の在り方にまで関連しますので、将来行政に携わりたい（公務員福祉職・行政職を目指している）と考えている学生や、経済や政治について学んでみたい学生も歓迎します（取り扱う共通テキスト自体は経済学等の知識無くても読めるものです。ご心配なく）。「たくさん楽しんで、よく学んだ」二年間にしていきたいと思います。そのためのサポートは惜しみません。